

消火器の使い方

①安全ピン(栓)を引き抜く

②ホースをはずし火元に向ける

③レバーを強くにぎる

* 粉末消火器の場合、消火薬剤が燃焼物の中へ浸透しませんので、消火器使用後十分に水をかけて燃焼物の中に残る火種を完全に消火しましょう。

火災発生時の避難のポイント

- 炎が天井に達したら、消火をやめて避難する。
- 避難は高齢者、子供、病人を優先する。
- 服装や持ち物にこだわらず、早く避難する。
- 煙の中で逃げるときは、できるだけ姿勢を低くする。
- いったん逃げ出したら、再び中には戻らない。
- 逃げ遅れた人がいるときは、近くの消防隊にすぐ知らせる。

知っておきたい応急手当

止血

- 清潔なタオルやガーゼなどを傷口に当て、その上からビニール袋などをかぶせた手で圧迫します。
- できるだけ傷口を心臓より高くしておきましょう。

骨折

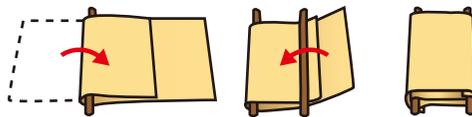
- 折れた部分に添え木をして、上下2関節を含めて固定します。
 - 適当な添え木がなければ、傘、杖などで代用します。
- ※変形している場合は無理に元の形に戻さないでください。

やけど

- できるだけ早く流水で冷やします。
 - 刺激が強い場合、洗面器などに水を溜めて患部を冷やします。
 - 衣類などを着ている場合、脱がさずその上から冷やします。
 - 広範囲のやけどをした場合、ホースなどで水をかけるか、清潔なシーツを水に浸してやけどした部分に当てて冷やします。
- ※長時間の冷却によって体温が低下するので、広範囲のやけどでは、10分以上の冷却は避けましょう。

※応急担架の作り方

毛布の1/3のところを棒を置いて、毛布を折り返して作ります。
※毛布がないときは、上着を2本の棒に5着以上通して代用ができます。



AED

避難の流れ

地震発生

自分の身の安全を確保

出火防止・初期消火と避難路の確保

状況の確認(家族、自宅建物、近隣の様子等)

安全

危険がある

自宅に留まる

近隣での助け合い

自宅が損壊 家では不安

最寄りの安全な場所での一時避難

安全な場所・施設 (防災広場・公園等)	一時集合同所 (町会会館等)	最寄りの避難所 (区立小・中学校等)	補完避難所 (児童センター・都立学校等)
高台・最寄りの高い建物 (津波警報発表時)		広域避難場所 (火災の延焼、拡大時)	

状況の確認(火災、建物倒壊、道路の様子等)

自宅生活可能

自宅生活不可能

自宅に戻って生活

指定された避難所で生活
(区立小・中学校等)

物資の配給

避難者が多数の場合

援護が必要な方

補完避難所で生活
(要員・物資の投入で避難所になる)

二次避難所で生活
(シルバーセンター等)

発災直後

避難行動

避難生活